

■「インフラ長寿命化に向けた計画」の体系について

我が国では、高度経済成長期以降に整備したインフラの一斉老朽化が見込まれます。このようなインフラを計画的に維持管理・更新することで、国民の安心・安全の確保や維持管理・更新に係わるトータルコストの縮減・平準化等を図る必要があります。

このため、平成25年11月、政府全体の取り組みとして、「インフラ長寿命化基本計画」が取りまとめられました。国土交通省では、この基本計画に基づき、国土交通省が管理・所管するインフラの維持管理・更新を着実に推進するために中長期的な取組みを明らかにする「国土交通省インフラ長寿命化計画(行動計画)」を他省庁に先駆けて平成26年5月に策定しました。

現在、この行動計画に基づき、各施設の管理者が点検や修繕等を行うとともに、個別施設ごとの具体的な対応方針を定める長寿命化計画(個別施設計画)の策定など、計画的な維持管理・更新に取り組んでいます。

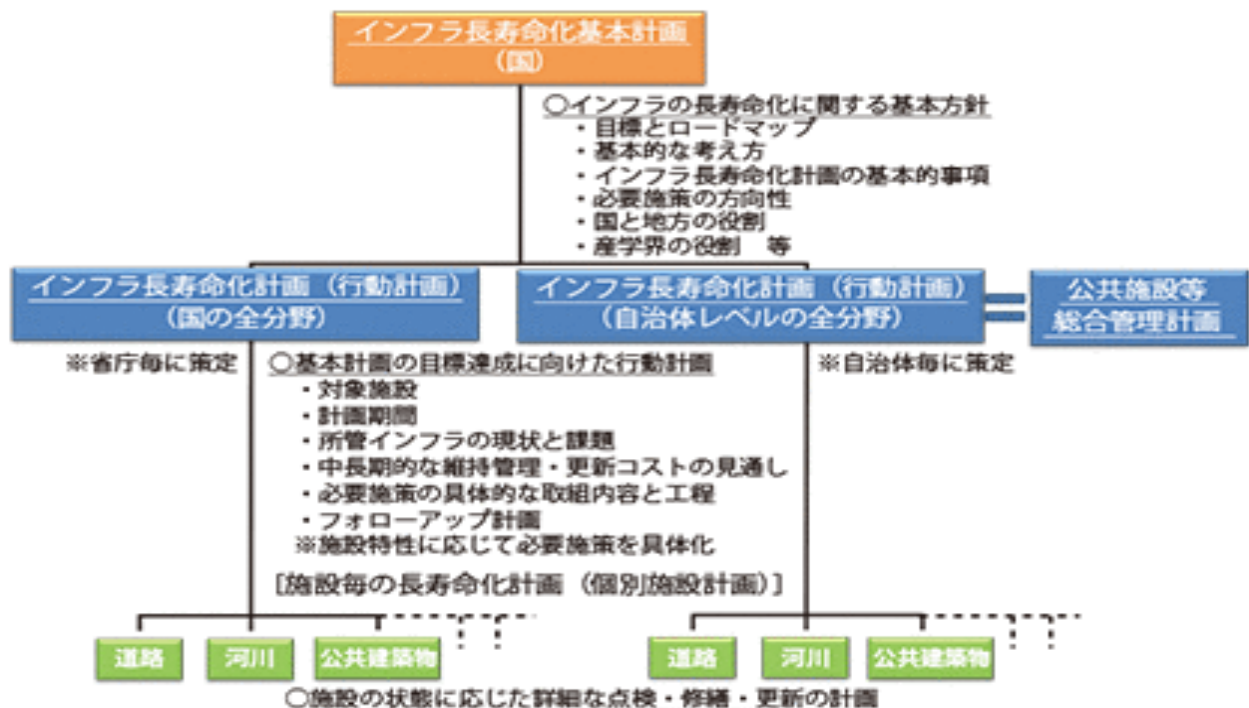
出典：国土交通省 HP より原文引用

社会資本の老朽化の現状(建設後 50 年以上経過する社会資本の割合)

	2018年3月	2023年3月	2033年3月
道路 [約 73 万橋(橋長 2m 以上の橋)]	約 25%	約 39%	約 63%
トンネル [約 1 万 1 千本]	約 20%	約 27%	約 42%
河川管理施設(水門等) [約 1 万施設]	約 32%	約 42%	約 62%
下水道管きよ [総延長:約 47 万 Km]	約 4%	約 8%	約 21%
港湾岸壁 [約 5 千施設(水深-4.5m 以深)]	約 17%	約 32%	約 58%

資料：国土交通省

インフラ長寿命化に向けた計画の体系



国土交通省 HP より抜粋

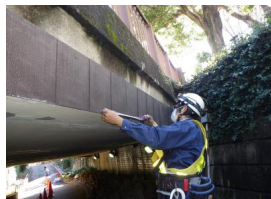
□ 弊社におけるインフラ長寿命化の取組み

1. はじめに

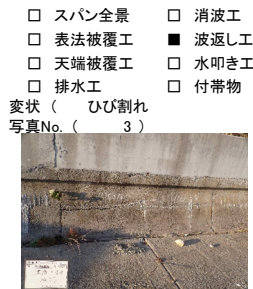
重要な社会的要請となりつつある「インフラ長寿命化」への動きを受け、弊社では今までに培ってきた様々な知見・技術を活かし、橋梁、河川、港湾、ダム、公園などの諸施設にて、その計画作成や既存計画のアップデートを行っています。その標準的な作業手順は以下のとおりです。

2. 作業手順と内容

①点検	施設を構成する各要素（例えば橋では橋脚など）を目視や機器を用いて健全度の点検を行います（写1）。
②評価	点検結果を基に、補修・修繕の必要・緊急性についての評価（通常は4段階）を行います（写2）。
③コスト算出	必要とされる修繕費用を計算し、個別・総額それぞれの金額を明らかにします。
④修繕優先度	限られた時間・予算・マンパワーで効率的よく作業を進めるため、どの修繕の優先性が高いかの評価・判断を行います（例：図1）。
⑤年次計画	ある年度への作業や費用の集中を避けるため、先に④の判断を尊重しつつ平準化した修繕スケジュールを立案します（例：図2）。



写1



写2

◆現場では、目視などによる点検を行い（写1）、データとして整理します。さらに、その結果について、修繕の内容、必要性や緊急性の判断を行います（写2）。

- スパン全景
 - 消波工
 - 表法被覆工
 - 波返し工
 - 天端被覆工
 - 水叩き工
 - 排水工
 - 付帯物
- 変状（ ひび割れ
写真No.（ 3 ）

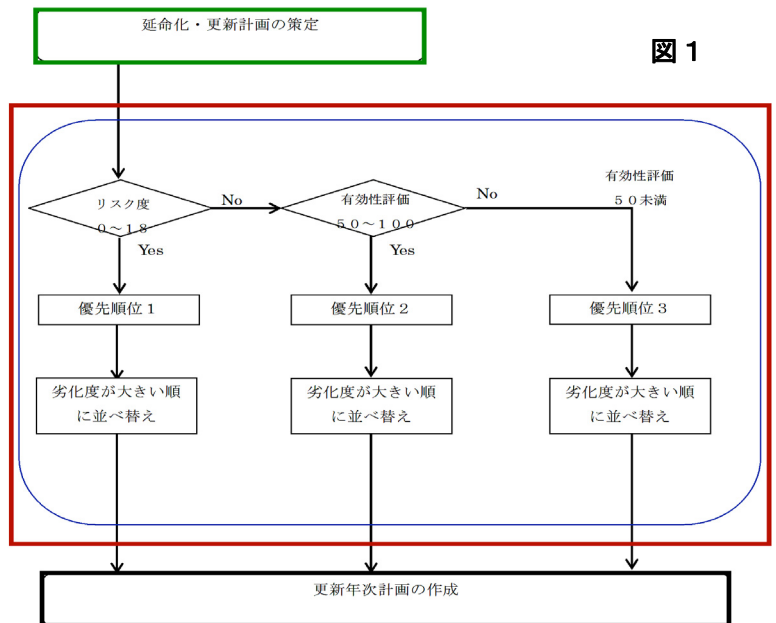


図1

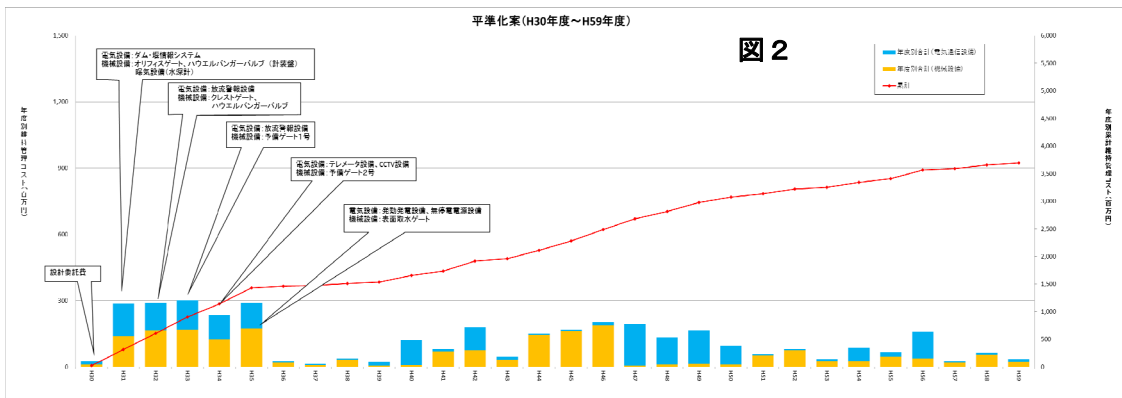


図2

◆必要とされる補修の優先度をフローにて判断し（図1）、それらの結果を考慮しつつ、作業量や費用を平準化した修繕スケジュールを提案します（図2）。



株式会社 東光コンサルタンツ

営業担当：

〒170-0014 東京都豊島区東池袋4丁目41番24号東池袋ビル8階

TEL: 03-5956-5509 FAX: 03-5956-5513

URL: <http://www.tokoc.co.jp>

担当： 本社 技術本部 川崎